

中国最初の公立幼稚師範学校における

教師養成の實踐とその理論的背景

—— 陳鶴琴の「活教育」の思想との関連 ——

楊 玉 珍

I、はじめに

一九四〇年一〇月一日江西泰和で、江西省立実験幼稚師範学校（一九四三年二月には国立となる）が創立された。これは、中国における最初の公立幼稚師範学校である。それより以前の幼稚園教師の養成は、師範学校に付設の幼稚師範科や、教会や民間個人が創立した幼稚師範学校によりなされていた。江西省立実験幼稚師範学校の創立は、中国の幼稚園教師の養成史上、きわめて大きな歴史的意義がある。なぜなら、同校は、中国における初めての公立幼稚師範学校であり、ここでは、それまでないような中国独自の幼稚園教師の養成の實踐が行われたからである。そこで、同校の創立の背景と、教師養成の實踐の意義を説明することは、中国における幼稚園教師

の養成及び幼稚園教育の歴史の解明にとって極めて重要である。しかし、同校に関しては、これまでほとんど研究が行われていない⁽¹⁾。

江西省立実験幼稚師範学校の創立に、實際的な力を發揮したのは当時中国の幼稚園教育界の中心人物であった陳鶴琴である⁽²⁾。彼は、同校の校長として教師養成の實踐を指導した。本論は、この江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の實踐の意義を、陳鶴琴の教育思想——「活教育」の思想——との関連において、考察することを目的とする。

この目的を実現するために、まず、同校創立に到る当時の中国の幼稚園教育の状況、そして、その状況による課題意識に応じた陳鶴琴の思想的課題を検討する。次に、同校における教師養成の實踐を分析する。更に、同校の

実践と陳鶴琴の「活教育」の主張との実際の関連を論じる。これらの分析を通して、中国の幼稚園教師の養成の歴史における同校の実践の意義を考察する。考察の中心となる資料は、同校の教師がその教育実践に関して、当時の教育雑誌（主に『活教育』）に載せた実践報告、及び陳鶴琴の四十年代の「活教育」に関する著述である。

II、江西省立実験幼稚師範学校の創立の 時代的背景

一九一〇年代から二〇年代初頭にかけて、中国の幼稚園教師の養成を担ったのは、主にキリスト教会によって作られたいくつかの幼稚師範学校と女学校に付設された幼稚師範科である。たとえば、蘇州の景海女子師範幼稚師範科、杭州の弘道女子中学幼稚師範科、福州協和幼稚師範学校などである。当時、中国側の教育機関の中で、幼稚師範教育を行っていたのは、北平女子高等師範、江蘇第一女子師範学校の二、三例しかなかった⁽³⁾。教会の幼稚園教師の養成機関の卒業生は全国の幼稚園に就職して幼児の教育に従事していた。だが、二〇年代後半になると、宗教的色彩が濃厚で、教育の内容、方法、施設な

どのすべてが単純に外国を模倣する幼稚園教育は中国の実情にそぐわないことが、幼稚園教育の先覚者達により指摘されはじめ⁽⁴⁾、中国の子供に適した幼稚園教育を実現するための幼稚園教師の養成が希求されるようになった。

また、当時の幼稚園はいくつかの大都市に集中し、高い経費を必要とするため、一般の民衆には手の届かないものであったが⁽⁵⁾、二〇年代は、幼稚園教育を一般民衆にまで普及する必要性が指摘されはじめた。幼稚園が一般民衆にまで普及するためには、幼稚園教師を養成する制度的整備が必要であったのである。

一九二八年の全国教育会議では、陶行知と陳鶴琴による提議に基づき、「注重幼稚教育案」⁽⁶⁾が可決され、各省区に、幼稚師範学校を開設するか師範学校（あるいは、高等学校師範科）内に幼稚師範科を付設することとなった。一九三二年一月一七日、国民政府が「師範学校法」を公布した。その第二条には、「師範学校が……幼稚師範科を付設すること、第三条には、「幼稚師範科の修業年限が二年から三年まで」ことが規定されている。さらに、一九三五年六月二十二日には、「修正師範学校規程」が發布され、その第二八条において、三年制と二年制の

幼稚師範科の教育科目について初めて規定されている⁷⁾。そしてまた、一九三七年に勃発した中日戦争による戦争孤児の養育は大きな社会問題となり、この事態は公立の幼稚園師範学校の創立を促進することとなった。

江西省立実験幼稚師範学校は以上のような状況を背景として、一九四〇年一月一日に創立された。江西省では、長期の戦争や自然災害の影響で、人民の生活は困窮していた。生産の発展、人民生活の改善、子どもの健全な成長のためには、教育による推進が必要であるとして、江西省主席熊式輝と江西省教育廳長程時燦は江西省立実験幼稚師範学校の創立を計画した。そして、実際の創立に当たっては、当時中国の幼稚園教育界で最も注目されていた陳鶴琴を、本校の教育実践の指導者に起用したのである。

中日戦争のころ、陳鶴琴は上海租界で難民教育に従事していた。当時、重慶に移っていた民国教育部が、陳鶴琴に、国民教育委員会の責任者になることを要請したが、彼はこれを辞して、江西省に行き、省立の実験幼稚師範学校の創設に尽力したのである。陳鶴琴自身によれば、彼の創立の尽力の背景には、次のような思想がある。

まずキリスト教である。陳鶴琴は、中学校時代から教

会学校で学び、その際に洗礼を受けている。キリスト教の博愛、平等、犠牲の精神は、彼をおおいに感化するものであった⁸⁾。「宗教の精神は、私に深い影響を与え、私を教育の闘士にさせた。……早くから私は、一生を勞

苦の大衆に捧げることを志し、それと同時に、『他の人がやりたくないこと、やる勇気がないこと、軽視してやらないことであつても、自分はやる』という宗旨をもつた。清華大学時代に工友補習班を作ったこと、留学時代に華僑童子軍の仕事に従事したこと、帰国後に南京鼓楼幼稚園を創立したこと、これらはすべてこの信念に基づいている。幼稚師範学校の創立にうちこんだのもこのような理念に基づいている⁹⁾と、彼は述べている。また、陳鶴琴は、アメリカ留学時代、Dr. Dane Monroe によつて組織された黒人教育視察団に参加し、黒人学校である Hampton Institute と Tuskegee 学校を參觀した。学校は、黒人の教師と学生が共同して、自分達のための学校を自分の手で建設、管理するというものであり、こで行われていた生き生きとした教育は、陳鶴琴に深い感銘を与えたのである。彼は中国人による中国人のための教育を実際の試行錯誤を通して作り上げたいと考えた。このような中国における全体的な教育改革の一環と

して、彼は幼稚師範教育の實踐に着手したのである⁶⁰。

III、江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の實踐

江西省立実験幼稚師範学校は、幼稚師範専修科（幼稚師範学校の教師と児童教育研究の人材を養成する）、幼稚師範部、附属小学校、附属幼稚園と附属嬰兒院の五つから組成されているが、ここでは、幼稚師範部の教師養成の實踐について考察する。幼稚師範部は幼稚園と小学校の教師を養成することを目標としていた⁶¹。それほど一般的な實踐活動を通して實現しようとしたのであろうか。

1、課程の編成の特徴

一九三五年六月二二日の「修正師範学校規程」では、幼稚師範科の教育課程と教授時数が規定されているが、三年制の幼稚師範科の課程は表一のとおりである。この課程の規定は、普通の師範学校の教育心理を児童心理に、小学校教材及教授法を幼稚園教材及教授法に、小学校行政を幼稚園行政に改める他、保育法の一科目を加えた以外、一般の師範学校の課程の規定とほとんど変らないし、

全体的に幼稚園教育の科目が少ない。これに対して、江西省立実験幼稚師範学校の課程の設置は資料表二のとおりである。基本的には「修正師範学校規程」に準拠しているが、科目の編成、内容の面において、次のような違いが見られる。

(1) 幼稚園と小学校の教育内容との対応を重視するため、諸科目を融合する傾向がみられる。小学校の「社会」、「幼稚園の「常識」と対応するため、「歴史」と「地理」を「社会」の一科目に、「生物」「化学」「物理」を「自然」の一科目に融合する。そして、教育実践との関連への重視及び実践の中の学習という主張に基づいて、「幼稚園教材及教授法」と「実習」を「教授及実習」の一科目に融合する。それは、幼稚園教材と教育方法についての教授が、幼稚園での実際の実習の中で行われることを意味している。

(2) 教職用専門教育の内容が拡大されている。すなわち、学習心理などを内容とした「教育心理」の科目、及び青年心理、群衆心理、職業心理などを内容とした「人生心理」の科目を加えたこと、「保育法」にかわって、「家庭教育」を設け、児童保育法のほか、親に対する教育を教育内容にいれること、「幼稚園行政」のかわ

表一、三年制幼稚園師範科教育課程及び各学期の週あたり授業、自習時数表

(教育部第八四九七号部令公布「修正師範学校規程」一九三五年六月三日)

時数	科目		公民	体育及遊戯	衛生	軍事看護	国語	数学	歴史	地理	生物	化学	物理	劳作			美術	音楽	論理学	教育概論	児童心理	幼稚園教育及教授法	保育法	幼稚園行政	教育測定及統計	実習	毎週授業総時数	毎週課外運動及自習
														農	家事	工芸												
第一学年	第一学期	2	3	2	4	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	2	3	3	3	2	2	2	2	36	24	
	第二学期	2	3		4	2	3	3	3	3	3	4	3		3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	36	14	
第二学年	第一学期	2	3	1	4	3	4	3	3	3	4		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	34	26	
	第二学期	2	3	1	4	3	4	3	3	3			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	36	24	
第三学年	第一学期	2	2		4										3	3						2	2	2	18	24		
	第二学期	2	2		4										3	3						2	2	2	18	26		

(教育部参事處「教育法令彙編」第一輯 商務印書館 一九三六年一月 頁224~225より)

1、実習は参観、試習、試教の三項を含む。実習では予備、報告、検討を行う。実習の時間は半日に3時間。
 2、幼稚師範科は、毎日の授業、自習及び課外活動の総時間数が10時間、毎週60時間。
 3、授業時間以外、毎日の朝の体操、自習及び課外運動の時間が1時間。そのほかの時間は自習時間。
 4、学校での自習及び課外運動には、教師の監督と指導が必要。
 5、寄宿学生は必ず自習に参加する。非寄宿学生は学校での自習が免除される。各学校は監督、考査の方法を厳格に決める。

表一、江西登立実験幼稚師範学校三年制幼稚師範科教育課程及び各学期の週あたり授業時数表

科目	学期	第一学年		第二学年		第三学年		学 習 内 容	備 考
		第一学期	第二学期	第一学期	第二学期	第一学期	第二学期		
公民	1	1	1	1	1	1	1	①体育と朝の体操以外の課外活動時間が3時間。	
体育	2	2	2	2	2	3	3	②「職後方服務訓練」が毎週2時間。	
衛生	1	1	1	2	2	3	3	③学校での自習時間が毎日2時間。	
国語	6	6	6	5	5	3	3		
数学	2	2	2	1	1				
社会	3	3	3	3	3	2	2		
自然	3	3	3	3	3	2	2		
農工芸及実習	3	3	3	2	2	1	1		
家事	2	2	2	2	2			裁縫、繙織、調理、家事管理	
音楽	2	2	2	2	2			審美概念、美的環境の感懐の能力、人物、動物、植物を捉く基本技能の養成	
美術	2	2	2	2	2			簡単な鍵盤音楽の創作、習作、歌う技能の習得	
普通論	4	4	4	4	3	3	3	教育原理、教育史、教育動向、教育方法	
児童心理*	3	3	3	2	2			児童発達の心理現象及び児童心理の實際教育への応用	
幼稚園教育	2	2	2	2	2			幼稚園教育發展史、各国幼稚園教育概況、幼稚園教育行政、幼稚園教育研究	
教授及実習			4	4	4	14	16	豊見隆、幼稚園、托児所の參觀、見習と実習、教材の關係、教育方法の實際、實際教育問題の検討	
家庭教育			2	2				児童保育法、親教育	
教育心理				2	2	2	2	学習心理など	
測定及統計					2	2	2	教育測定、心理測定、統計方法、図表の作成法	
人生心理			3		2			青年心理、罪疚心理、職業心理など	
毎週授業総時数	36	36	36	36	36	36	36		

(袁昂)「松林中の省立実験幼稚師範教育月刊社」『活教育』四卷九、一〇期 p.117~122、
 *陳鶴琴の「戦後中国的幼稚教育」教育雜誌社「教育雜誌」三三卷二号 p.97~99より作成

各二時間になっている。

りに、幼稚園教育発展史、各国幼稚園教育の概況、幼稚園教育行政、幼稚園教育研究などの幅広い内容を含む「幼稚教育」の科目を設けたことである。

(3) 一般科目の内容が、幼稚園教育と密接な関連をもつて編成されている。そのことは、「体育」の中に、学生的一般身体教育のほか、児童遊戯と韻律活動の内容をいれたこと、「国語」の中に、一般の国語教育内容のほか、児童文学理論と創作の内容をいれたこと、及び「音楽」が児童音楽を中心とするものであり、「衛生」が児童衛生、婦女衛生を中心とするものであること、に、現われている。

以上のような三つの点が、教育部が規定した幼稚師範科の教育課程と比較して、江西省立実験幼稚師範学校の教育課程の編成の特徴と考えられる。すなわち、幼稚園教育に関する近代的な教育内容が重視され、教育現場の幼稚園や小学校との関連が目指されたといえる。それは幼稚園の教師として、近代的な専門知識と技能を身につけることが重視されていたものといえよう。

それでは、このような教育課程をもつ、江西省立実験幼稚師範学校での実際の授業はどのように行われたのだろうか。

2、授業の実際

この学校では、書物を使つて教えるばかりではなく、身のまわりの実際の自然や社会の出来事から教材を選ぶことが非常に重視された。たとえば、時節に沿つた自然現象や、日常生活での出来事を「自然」の教材として取り入れたり、時事問題を「社会」の教材として取り入れた。そして、多くの雑誌、新聞の文章、書物が参考資料として活用された⁽¹²⁾。

このようなことを教材とした授業は次のような特徴を持つものであった。

(1) 幼稚園教育の実際との関連が重視された。特に児童心理、幼稚教育の科目の授業は、嬰兒院や幼稚園を教室にして行われた。児童心理としては、学生が直接に幼稚園や嬰兒院の子どもの行動を観察し、詳しく記録してから、関連ある各種の資料を参考して、研究報告を作る。それをもとに、共同討論を行い、子供の発達における各種の心理現象を学んだ。さらに、こうして得た児童心理の知識をいかに教育の場面に応用するかについても共同討論がなされた。教授及実習という科目の教授の時間数が最も多かった。これは、幼稚園や托児所、嬰兒院の參觀と実習を通して、実際の幼稚園教材の開発、幼稚園教

育方法の実験などが検討されるものであった。また、工芸及実習では、木工、紙工、編織の工作をし、幼稚園の教材用具の開発及び修理の能力の育成が重視された。

(2) 学生には実際の操作、創作の機会が多く与えられた。

たとえば、「国語」の教授⁽¹³⁾として、①自分の身近な題材を選んで文章を書かせる。②学生の作品あるいは刊行物でも間違いのある文章を、週に一回か二回もちよって、自分の見解を発表し、文章の内容、形式、文法の間違いを訂正しあった。③集団創作として、一つの題目について、みんなで討論し、創作の要旨と程序を決め、一人の学生を推薦し執筆させることがおこなわれた。このことは、個人の狭い認識を超えて、題材の処理と材料の整理することを学ぶために有効であると考えた。④地域住民のために「文汇报壁」、学校内のためには「幼稚園地」という壁新聞を発行した。以上のような活動を通して、整理、思考、創作の経験を身につけることが目指されたのである。家事、農工芸及実習、美術、音楽等の授業においても、同様に実際の操作、創作の機会が多く与えられたのである。

(3) 現実社会に関する研究が学習の一部として重視された。政治、経済、文化、軍事などが現実社会との関連

を通して研究、学習された。たとえば、社会参観、農村調査、時事の宣伝、負傷兵士、難民の救護などの活動を通して、国際の情勢、中国の社会についての認識が獲得された⁽¹⁴⁾。

(4) 教師がチームを組んで教授することが重視された。これは一人の教師が一つの科目を担当するのではなく、一つの科目を分けて、複数の教師が自分の得意な面の教授を担当するものである。例えば、国語の教師として、ある教師は詩歌が得意で、ある教師は小説が得意で、ある教師は児童文学が得意である時、共同で教材の綱要を決め、各々の教師が各自の得意な面の教授を担当する⁽¹⁵⁾。また、教師が相互に学び合うことが重視された。例えば、A先生の授業の時、B先生が傍聴にいく、B先生の授業の時、C先生が傍聴にいく。そして、授業後、集まって共同討論を行い、共に進歩することが求められた⁽¹⁶⁾。

(5) 学生の学習においても、共同の討論を通して、共に進歩することが求められた。個人競争は、相互の不信感、またカンニングなどの不正の発生を促す危険があるものとされて退けられた。共同討論、共同研究で、相互に刺激し、共に進歩することが目指され、「分組

討論」と「共同研究」の学習方法が採用された。能力

の高い者は能力の低い者を助けることが求められた。

学習成績は組の全体の進歩から判断された。「分組討

論」と「共同研究」の学習方式に適するように、幼稚

師範学校の教室の机は会議用の机のようにつくられた。

すなわち、一教室に六つの机が置かれて、一組の学生

(八人くらい)が一つの机を囲んで座るようになって

いた。

以上のように、江西省立実験幼稚師範学校では、近代的な学習内容を取入れ、幼稚園の現場との関連を通して、生徒の自主的学習を求め、子どもについての理解や、実際の研究能力、創作の能力及び実践の能力の養成がつねに重視された。更に、専門領域に関するものに限らず、現実社会についての認識も求められた。その際、学習活動、教授活動に一貫した教育方針は、共に進歩するということであった。

また、江西省立実験幼稚師範学校では、以上に述べたような幼稚園教師として必要な専門知識や能力の養成が目指されたばかりではない。本校の教師養成の実践では、労働、訓育(道德教育)も重視された。

3、日常生活と労働からの出発

江西省立実験幼稚師範学校では、「手脳並用、文武合一」のスローガンのもとに、日常生活の自己管理、生産、建設労働が重視された。このようなことが学習内容の重要な一部として位置づけられたのである。具体例を挙げると、次の通りである⁽¹⁷⁾。

第一、自分達の学習場所を自分達で作ったこと。一九四〇年一〇月一日の開学の時点では、校舎の建設がまだ完了されていなかった。学生と教師はともに、校舎の建設労働に参加した。学生は十人ずつ一組に分かれて、組毎に一人の教師が付き、道路を開き、煉瓦の代わりに使うための草を編み、土や石を担い、木を伐採したのである。こうして、一年の後には、光明路、真理路、創造路、建設路が開かれ、建築の青松在抱樓(総事務廳)、天翼堂(礼堂)、フレール院(教室)、孟母院(教室)、デューイ院(附小の工作室)、松濤齋(宿舍)、龍泉齋(宿舍)、放鶴亭と鳴琴館などが立てられた。運動場も整備された。

第二、自分達の食料を自分達で作ったこと。学校には農場があり、ここで、学生及び教職員の食用のための野菜や果物が作られた。そのほか、豚や鶏、あひるも飼育

された。農具や道具は多く揃えられており、耕牛も飼育していた。

上のような生産労働の重視は学校が創った独自の「労働早操」⁽¹⁸⁾にも反映されている。

第三、自分達の生活、学習環境を自分達で自主的に管理すること。教室の清潔、寝室の清潔、食堂の管理などはすべて学生が行った。学生は八人一組に分かれて、学生と教職員のための食品の購入、食事の用意、後かたづけなどを、当番制で担当した。

同校で行われた以上のような実践活動について、陳鶴琴は、「労働と学習は分立するものでなく、同一の過程の中でこそ完成するものである」⁽¹⁹⁾。「生活環境を改善する試みはすべて、われわれの教育の機会である」⁽²⁰⁾と述べている。幼稚師範学校の卒業生は当時の生活を回想し、学校の生産労働、日常生活の自己管理が「……われわれの生活能力を鍛えて、皆に奉仕する精神を育てた」⁽²¹⁾と述べている。

このように同校では、幼稚園教育に関する知識や技能の教授に限らず、日常生活を起点として、生産労働を行うことにより、生産の能力、建設の能力、生活管理の能力及び奉仕の精神を持つ新しい幼稚園教師の養成が志向

されたのである。このような教育方針は次のような訓育（道徳教育）の特徴とも結びついている。

4、訓育（道徳教育）の特徴

同校で、訓育の機能をもつ組織としては、幼獅団があった。幼獅団とは、同校の場合、学級の枠を超えて、学生全員が十隊に分かれて結成したものである。それは、教師が学生を指導するための組織ではなく、学生自身によって集団生活の中で自己教育し、環境改造を通して、民族精神を発揚するために組織されていた。「幼獅団」と名付けた理由は、①全ての人々の心の中には眠っている「獅子」がいる、その「獅子」をおこし、更に全国大衆の心の中の「獅子」をおこし、国家、民族のため「獅子」の威力を発揮すべきである、②幼い「獅子」は、成長しつつ、はつらつとした力、生気にあふれる、③「幼獅」は幼稚師範学校の「幼師」と同音語である、の三点という⁽²²⁾。

幼獅団が研究活動、研修活動及び娯楽活動を主催していたが、このような活動は個人が秀でることを目指すのではなく、全員の進歩を求めたためのものであった。幼獅団には次の四つの信条がある。即ち、①品行端正な学生

になるだけでなく、民族復興の幹部になり、積極的に民族復興の事業に参加する、②学生が一方的に師長の指導を受けるのではなく、学生との相互関係で教育効果をあげる。教師と学生とは対等である。③団の組織の機能：
a. 個人の社会化を推進する、b. 自己中心を克服し、団の力で奉公、為公、重公、愛公、従公、天下為公の意識を育てる、c. 集団の力を発揮する、④なすことを通して学ぶ、なすことを通して教え、なすことを通して進歩を求める。

このような「幼獅団」と名付けた理由及び幼獅団の信条から、同校の訓育は、一般の品行、道徳の修養に限らず、国家、民族復興の幹部として、個人の利己的な「私」を克服し、「公」社会への奉仕の精神の養成を目指すものであったことがわかる。それは教師が一方的に学生を指導するのではなく、学生達自身が組織する集団活動において体得させることが目指された。

以上、江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践についてみてきた。その実践の特徴を、次のようにまとめることができる。

(1) 個人競争による個人の進歩ではなく、集団の力を發揮し、共同の進歩が常に求められた。それを目指して

の共同討論と共同研究は同校の教育実践に一貫した教育方法である。また、実践の能力の養成を目指して、実際の操作、実践が常に重視された。

(2) 幼稚園教師の養成を目標にして、実践の中で目指された幼稚園教師の人間像は、近代的な専門知識と技能を獲得した者であると同時に、国家、民族の復興のため、現実社会についての認識、「私」を抑えた上で、他人、民族、社会への奉仕する精神、及び、生産、建設の能力、生活管理の能力、実際の研究の能力、実践の能力を身につけた者である。

このような特徴をもつ江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践は、当時の中国社会において、どのような歴史的意義をもつのだろうか。先にも述べたように、同校の創立に实际的な力を発揮したのは陳鶴琴である。江西省立実験幼稚師範学校の六年間の歴史の中で、陳鶴琴は校長として、同校の教師養成の実践を指導した。そこで次に、同校で行われた教師養成の実践の意義について、陳鶴琴の教育思想——「活教育」の教育思想——との関連を通して考察する。

IV、陳鶴琴の「活教育」の主張と教師養成の 実践との関連

陳鶴琴は、中国の社会の事情を考えずに、単純に外国教育の理論を輸入する教育の現状に対して批判し、中国の現実社会の要求、民族の精神に合致する新しい教育理論を探究しなければならないと考えた⁽²³⁾。彼は当時欧米諸国に潮流としてあつた新教育運動に応じる姿勢で、特にデューイの“*Learning by doing*”の思想から深い影響を受けて、「活教育」(Living education)を提唱した。これは、中国人による中国人のための教育を、実際的な試行錯誤を通してつくりあげようとするものであつた。

「活教育」の「活」とは「死」ではなく生きていくことを意味する。陳鶴琴は従来行われてきた中国の教育を「死教育」とであると批判した。彼は、「死教育」では、教育の目的は多くの零細な知識と技能を教え込むことにあり、クラス教授の形で教師が口で一方的に教え込み、教育課程が固定的で、教材は公式的であり、教師と子どもの間には明確な区別があり、教師は活動の中心で、権力によって子どもを管理しており、学校は社会に関連し

ていないと、批判した。このような「死教育」に対して、「活教育」が主張する活きた教育は、人間としてあるべき態度、優良な習慣の養成、内在の興味の発見、探究の方法、人生の基本技能の獲得を目指すものであり、なすことを通して学び、なすことを通して教え、なすことを通して進歩することを求め、教育課程の編成と教材の選択は児童心理と社会の需要に基づき、子どもが活動の中心で、自己管理し、学校は教師と子どもが共に生活し、共に学習し、力を合わせて環境を改造し、社会に奉仕するための処点となるというような教育である⁽²⁴⁾。

このような陳鶴琴が提唱する「活教育」の思想との関連において、江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践の意義を考察しよう。

1、「活教育」の目的との関連

「活教育」の目的は、「做人、做中国人、做現代中国人」である。すなわち、人間に成る、中国人に成る、現代的中国人に成るということである。

「做人」とは、人間としての品行、道徳修養をすることを意味している。陳鶴琴は、「人間は他者との相互関係の中にある、よい人間関係をつくり、この関係を通し

て共同生活し、協力することによって自然を支配し、社会を改善し、個人ひいては全人類の幸福がもたらされる」⁽²⁵⁾

のであると考える。知的教育を強調し、品行、道徳の教育が無視されている教育現状に対して、「做人」の問題、即ち、道徳教育の問題が必要であると、彼は考えた。それは、「もし私があなたなら」の態度を取ることである。

すなわち、自分のことばかりでなく、他人の立場にたつて、他人のことを考えることである。人々が皆このようであるならば、「全ての問題が解決できるし、人類には平和だけがあり、戦争が無い；天堂だけがあり、地獄がない；幸せだけがあり、苦痛がないのである」⁽²⁶⁾。そして、自分の感情的なものを抑えること、公平であること、自分を犠牲し、他人を助けることも人間として取るべき態度である。

このような道徳修養は世界の全ての人々にとって必要であるが、また一方、人間にはそれぞれ特定の環境の中で生活しているという面がある。そして、その環境は人々の生活内容と生活意向を規定している。だから、上のような一般的な修養の他に、人間にはその国の中で生活するためにその国の人間として育てられる必要がある。当時の中国社会は半植民地半封建の社会で、人民の生活

は非常に困窮して、外に対しては、帝国主義の干渉を退け、内に対しては封建社会の余毒を清算して、民主的科学的社会を建設することが全ての中国人にとっての歴史的使命であると、陳鶴琴は考えた。この様な歴史的使命を担う現代中国人となるには次のような条件が必要であるとされた⁽²⁷⁾：

① 健全な身体：中国人は当時、外国人に「病夫」と呼ばれていた。……健全な身体を持つことは、新たな中国の建設を担うための条件である。

② 建設的能力：学生を様々な建設活動に従事させて、学校の工場、学校の農場を開発し、また、机や椅子の修理、環境の整備等を経験させ、建設的能力を育てることが必要であるとされた。

③ 創造の能力：数百年来の科挙制度のために、知識人は文筆上での能力にはたけても、実践の能力を欠いていた。今後は、創造能力を育てることが必要であるとされた。子どもにはもともと創造欲があるから、それをうまく誘導すれば、創造力が育てられるのである。

④ 協力の態度：中国人は、団体活動の中で協力する態度を欠き、そのことが中国の遅れの原因の一つとなっている。子どもが小さいときから、協力団結の態度を

育てる必要があるとされた。

⑤ 奉仕の精神：ただ知識技能を教えるだけでなく、奉仕すること、他人を助ける精神を育てることが必要であるとされた。

また、一九四八年の文章⁽²⁸⁾で、陳鶴琴は「活教育」の目的を「現代中国人」を育てることからさらに、「現代世界人」を育てるという理念にまで拡張している。戦争終了とともに、時代は変わり、中国人は、中国社会発展の特質を認識すると同時に、世界的視野を持ち、世界の潮流を認識し、世界の平和のために奮闘しなければならなくなったと、彼は考える。「現代世界人」とは上のような「現代中国人」として必要な条件のほかに、世界的視野をもつ、「国」を愛し、「人類」を愛し、「真理」を愛する者である。

以上のように、「活教育」の思想とは民族の復興、国家の建設と密接に関連し、建設的能力、実践の能力の養成を重視するものである。中国当時の社会現状は半植民地半封建であり、戦争による破壊で、人民生活は困窮した。そのような状況の中で、民族、国家を復興し、人民生活を改善し、新しい民主的科学的社会を建設する事がすべての中国人の歴史的使命であった。「活教育」が提

出した健全な身体、建設的能力、創造の能力、協力の態度、奉仕の精神を有する「現代中国人」とはまさにこのような歴史的使命を担う人間である。

江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践において、目指された幼稚園教師の人間像は陳鶴琴がここで主張する「現代中国人」の具体化である。前にも考察したように、同校の教師養成の実践の特徴として、近代的な専門知識と技能を重視すると同時に、国家、民族の復興のため、現実社会についての認識、「私」を抑えて、他人、民族、社会へ奉仕する精神、及び生産、建設の能力、生活管理の能力、実際の研究の能力、実践の能力の養成の志向があった。具体的にみると、実際の幼稚園との関わりを通しての研究や実践の能力の育成、現実社会についての認識を身につけるための社会研究活動、日常生活の自己管理や生産、建設労働による学生の生活能力、建設的能力の育成、更に、集団活動を通して、集団の力で「公」即ち社会へ奉仕する精神の養成を目指した訓育の実践などである。このような実践は、まさに、「活教育」が目的とする健全な身体、建設的能力、協力の態度、創造の能力、奉仕の精神を持ち、国家、民族の復興、新しい民主的科学的社会の建設の歴史的使命を担う「現代中

国人」を育てようとしたものである。ここに、江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践の歴史的意義が存在すると私は考へる。

2、「活教育」の方法との関連

「活教育」は、「なすことを通して学ぶ、なすことを通して教える、なすことを通して進歩を求める」ことである。陳鶴琴によると、これはデューイがシカゴで主張した“learning by doing”をさらに進展させたものである⁽²⁹⁾。

具体的特色としては、「なすこと」の重視と「分組学習、共同研究」の強調の二点をあげることができる。

「なすこと」というのは、実物を研究の対象として、実際の操作、生活の体験を通して「活きた」知識、操作の技能、実践の能力の獲得を目指す学習方法である⁽³⁰⁾。

これは子供を教室の中にとじこめて教師の方から一方的に教え込むという従来の教育に対して打ち出されたものである。このような実際の操作、実践の重視という方法的特徴には「活教育」の目的の中で目指された「建設的能力」「創造的能力」の養成との結びつきが読み取れる。

「分組学習、共同研究」というのは、学生をいくつか

の組に分けて、組の集団で学習し、共同で討論し、集団の力で学習の効力を求める学習方法である。このためには、クラス教授のように時間を制限するのではなく、教材の性質にしたがって、共同討論と研究のための十分な時間が設けられる。陳鶴琴によると、この学習方式の利点は、①組織的、②経済的ということである。組織的であるというのは、子供がバラバラに個人学習（クラス教授も実は個人学習であるという）することではなく、組の単位での集団学習をすることが可能である。これによって、共に進歩することが可能とされた。経済的であるというのは、集団学習の中で、同時に多くの意見がもたらされることにより、多くの問題が研究できるということである。たとえば、児童文学を研究する時、一組が子どもの物語を研究し、一組が子どもの歌を研究し、また、一組が子どもがよくやるなどを研究する、それから、相互に報告し、共同討論することを通して、すべての者が各組の研究した成果を獲得できるとする。以上のような点から、「分組学習、共同研究」はクラス教授よりも、個人教授よりも優れているとされた⁽³¹⁾。

このような共同研究、共同討論を通しての学習方法は、個人の知識、能力の限界を超えて、集団の力で学習の効

果を上げるといふ点において、一種の優れた学習方法であると考えられる。だがまた、それは、単に学習効果を求める学習方法ではない。共同の討論を通して共同の進歩を求める点は、陳鶴琴の教育目的の思想が反映されている。陳鶴琴は、中国人が伝統的に協力する態度を欠くことが中国の遅れの原因の一つと考え、国家、民族の復興、新しい民主的社會を建設する「現代中国人」は、協力の精神をもたなければならぬと考えた。共同討論を通して共同進歩を求める教育方法の主張は、彼のこのような教育目的の考えと関連して出されたものであると考えられる。人々が協力の精神を持ち、民族が団結し、共同の進歩が達されてこそ、国家、民族の復興、新しい民主的社會の建設が実現できるのである。

前に考察したように、江西省立実験幼稚師範学校の教師養成の実践の中では、実践の能力の養成のため、実践活動が常に重視された。また、共同討論、共同研究を通して、集団の力を發揮し、共同の進歩を求めたことも、同校の教師養成の実践に一貫した教育方針である。それは学生の学習、研究活動に現われるだけでなく、教師の教授活動にも、「幼獅団」の信条の中にも現われる。このような教育方法上における江西省立実験幼稚師範学校

の教師養成の実践は明らかに、陳鶴琴が「活教育」の中で提唱する「なすこと」と「分組学習、共同研究」の考へ方の具体的体现である。このような実践の能力と共同の進歩を求める実践こそ、建設的、実践の能力及び民族団結、協力の精神を持つ、国家、民族の復興、新しい民主的社會の建設の使命を担う「現代中国人」としての幼稚園教師を育てることができると考えられたのであろう。ここに、同校の教師養成の実践の意義が存在するのである。

V、おわりに

以上、陳鶴琴が提唱した「活教育」の思想との関連を通して、中国最初の公立幼稚師範学校である江西省立実験幼稚師範学校における教師養成の実践を考察した。この実践は当時の中国の国情に合致する幼稚園教育を実現するために、それを担う幼稚園教師の養成が求められていた背景の中で行われた。その時、幼稚園教育にたずさわる者は、幼稚園教師であるのみならず、中国民族を半植民地半封建の困窮、悲惨な境地から解放し、国家、民族を復興し、新しい民主的科學的社會を建設する歴史的

使命を担う「現代中国人」でなければならなかった。このような歴史的使命を担うことができる幼稚園教師としては、ただ幼稚園教育に関する専門的知識、技能、研究能力を身につけるだけではなく、健全な身体、建設的能力、創造の能力、「私」を克服した協力の態度、奉仕の精神をもたなければならなかった。江西省立実験幼稚師範学校は、このような「現代中国人」としての幼稚園教師の養成に輝いた実践の試みを行った。それは六年間の短い歴史であるが、中国幼稚師範教育史上において画期的な教師養成の実践であった。

注

- (1) 江西省立実験幼稚師範学校に関する叙述として、筆者がこれまで見いだしたのは、次のものである。
- ・鍾少華の「陳鶴琴教育思想与江西実験幼師」(『南京師範学院学报』社会科学版、一九八一年第二期、一九八一年五月一〇日)、これは紹介的な概説にすぎない。
 - ・『懷念老教育家陳鶴琴』(北京市教育科学研究所、四川教育出版社、一九八六年七月)に収録の邢舜田の「謙謙君子白髮童心」、張文郁の「回憶鶴琴先生學習鶴琴先生」、毛廷珞らの「為開創中国化的幼稚教育艰苦办学」、段世琳の「愛生如子女“的老校長”、周懋綺の「校長支持我与封建勢力作鬭爭」、張援萃の「生命不息 戰鬭不止」、谷斯範の「从贛州到饒家堡」、これらは同校の教師と同校で教育を受けた者達が当時を回想して書いたものである。いずれも短い

ものであり、研究論文の類のものではない。

- (2) 陳鶴琴：(Chen he-qin) 一九九二—一九八二、現代中国における教育家、児童教育家。浙江省上虞県に生まれ、

一九一四年から一九一九年の間、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学、コロンビア大学ティチャーズカレッジに留学。一九一九年帰国後、南京高等師範学校教授、東南大学教務長、上海工部局華人教育処長など歴任し、中国の国情に合致する教育の実現を目指して、児童心理学研究、教育測定研究、幼稚教育研究会の発起、児童教育雑誌の刊行、平民教育、実験幼稚園や幼稚師範学校の創立などに大いに活躍した。特に中国幼稚園教育への貢献が注目される。解放後、南京大学師範学院、南京師範学院の院長、中国教育学会名誉会長、中国幼児教育研究会名誉会長などを歴任。主著には、『児童心理之研究』(一九二五)、『家庭教育』(一九二五)、『活教育——理論与实际』(編著)(一九四七)、『活教育的創造』(編著)(一九四八)などがある。

- (3) 張宗麟「幼稚教育概論」張汎『張宗麟幼兒教育論集』湖南教育出版社、一九八五年八月、所収、P.8—11

- (4) これに関しての論文は、主に次のようなものがある：

陳鶴琴「我們的主張」北京市教育科学研究所『陳鶴琴教育文集』下巻、一九八五年一月、P.8—20

陶行知「創設鄉村幼稚園宣言書」華中師範學院教育科学研究所『陶行知全集』第一卷、湖南教育出版社、一九八四年一月、P.68—621

張宗麟「調查江浙幼稚教育後的感想」(一九二六、六)前掲(3)、『張宗麟幼兒教育論集』所収、P.23—41

- (5) 陶行知は前掲(4)「創設鄉村幼稚園宣言書」の中で、そのような幼稚園教育の現状を「化錢病」(費用が高い)「富貴病」

(富裕階級の子供しか享受できない)と強烈に批判した。そして、「幼稚園之新大陸」(前掲(4)「陶行知全集」第一巻 P.625~626)の中で、中国社会においては、本当に幼稚園教育を必要としているのは、労働に追われて子どもの世話ができない農村と工場の子供達であり、農村や工場は幼稚園教育の「新大陸」として、幼稚園を平民社会に普及しなければならぬと指摘した。

- (6) 中華民国大学院『全国教育會議報告』商務印書館 一九二八年八月 P.304
- (7) 教育部參事處『教育法令彙編』第一輯、商務印書館 一九三六年一月 P.196, 199~200, 214~216
- (8) 陳鶴琴「我的半身」世界書局 一九四一年七月 P.88~89
- (9) 陳鶴琴「創辦幼師的動機和經過」陳鶴琴主編『活教育』四卷九、一〇期、活教育月刊社 一九四七年一月 P.197
- (10) 前掲(9) P.197~199
- (11) 陳鶴琴「戦後中国的幼稚教育」教育雜誌社『教育雜誌』三二卷二号、商務印書館 一九四七年八月 P.53
- (12) 劉于良「前進的幼師」前掲『活教育』四卷九、一〇期 P.216
- (13) 袁昂「松林中的省立実験幼師」前掲『活教育』四卷九、一〇期 P.212
- (14) 余之介「活教育的開拓(続)」前掲『活教育』四卷九、一〇期 P.240
- (15) 劉于良「懷念国立幼師」前掲『活教育』四卷二期 一九四八年四月 P.34
- (17) 余之介「活教育的開拓」前掲『活教育』四卷二期 P.30~32
- (18) 労働早操：江西省立実験幼稚師範学校が創立した独自の体操の一種である。それは、ひもを引く、船を漕ぐ、布を織る、

鋸を引くなど十数種の実際労働の動作を体操の動作に編成しなおしたものである。

- (19) 前掲(9) P.200
- (20) 前掲(11) P.56
- (21) 毛廷珩、尹民瑞、楊毅、沈海南「為開創中国化的幼稚教育艰苦办学」北京市教育科学研究所「懷念老教育家陳鶴琴」四川教育出版社 一九八六年七月 P.174
- (22) 雷震清「幼獅團——実験幼稚師範導師制的組織」前掲『活教育』二巻二期 一九四二年二月 P.9
- (23) 陳鶴琴「活教育要怎樣实施的」前掲『活教育』二巻七、八期 一九四二年一月 P.132
- (24) 陳鶴琴「活教育與死教育」前掲『活教育』一巻二期 一九四一年一月 P.3~4
- (25) 陳鶴琴「活教育的目的論」前掲『活教育』五巻二期 一九四八年四月 P.39
- (26) 陳鶴琴「假如我是你——活教育的人生觀(一)」前掲『活教育』三巻八期 一九四五年五月 P.198
- (27) 前掲(23) P.132~133
- (28) 前掲(25) P.41~42
- (29) 前掲(23) P.135
- (30) 陳鶴琴「活教育的教育原則一」前掲『活教育』一巻四期 一九四一年四月 P.104
- (31) 陳鶴琴「活教育的教育原則二」前掲『活教育』三巻三期 一九四三年一月 P.66~67
- (32) 戦後の一九四六年夏、江西省立実験幼稚師範学校(一九四三年後の国立幼稚師範学校)が江西省の接管管理に移され、また江西省より南昌女子師範学校に編入され、本校の幼稚師範科となった。同年七月、幼稚師範専修科が上海に移り、上海

幼稚師範学校に編入された。これで、中国最初の公立幼稚師範学校、江西省立実験幼稚師範学校が六年間の歴史を辿って、終わったのである。一九四〇年の創立から一九四六年まで、七回の卒業生計二〇三名を送った。その詳細は次の一覧である。

第 回	級 名	卒業生徒数	卒 業 年 月	備 考
第一回	光明級	35	1942年 7 月	・ 第一、二回が省立
同 上	創造級	45	同 上	
第二回	服務級	13	1943年 1 月	
第三回	真理級	19	1943年 7 月	・ 本回から国立
第四回	建設級	14	1944年 1 月	
第五回	互助級	17	1945年 7 月	・ 本回から三年制(これまでは二年制)
第六回	労働級	27	1946年 1 月	
第七回	力行級	33	1946年 7 月	
共 計		203		

(劉子良「前進的幼師」活教育月刊社『活教育』四卷九、一〇期 P.218 (以下))